研究 REPORT リポート

こんな人 メモ

大阪府出身、幼少のころは自然いっぱいの高槻市で育ち、友人と虫を追いかけて日々を過ごした。「虫愛ずる姫君」とあだ名をつけられるほどで、自宅のベランダでイモ虫など数百もの昆虫の幼虫を羽化させ楽しんでいた。中学生のころは登山好きの指導教師の影響を受け、アマチュア無線の免許を取るために英語を勉強したり、真空管を使った無線機を組み立てたりしていた。

高校生になると大の理科好きが一転、「自分の一番苦手なことをしてみたい！」と思うようになった。当時は生徒全体の自治意識が強かったこともあり、国語嫌いで新聞も読まなかったが、生徒会活動の中心だった新聞部に入部。そこで表現する楽しさを知り、早稲田大学政治経済学部へと進んだ。「とことんこだわる性格」と、新聞部や早稲田大学で養った「大局的な視点」は、後の研究人生に大きく影響することになる。

趣味はオペラやクラシック鑑賞。スポーツは貧血のため全くできず、１００m走ると倒れてしまうほど。夫婦ともに研究者だったためか、子ども４人全員が研究者になった。「最低限の子育てしかできなかったが、親の背中を見て育ったのだろう」と嬉しそうにほほ笑んだ。現在は早稲田大学時代に結婚した夫と2人で仲睦まじく暮らしている。

うまくいけばハッピー！ できたことが次のエンジン！

病原微生物学 主任教授　筒井 ひろ子

医師、そして研究者へ

早稲田大学政治経済学部を卒業後、大阪市立大学医学部に再入学した。女性が仕事をして生活できる職業があまりなかった時代。将来のこと、また高校生のころから生物学に興味を持ち始めていたこともあり決意した。在学中は勉学と家事・育児との両立に苦労したが、夫が分担するなどして支えてくれた。

医学部を卒業後、臨床の道へ。最先端の学問であった免疫学に興味を持ち、免疫応答が大きく関係する肝臓内科を選んだ。しかし当時は、ウイルスやがん細胞の増殖を阻止したり、抑え込んだりと、ウイルス排除や免疫調整機能を持つインターフェロンが使われておらず、根治療法がなかった。

「分からなければ研究しよう！」。このことがきっかけとなり研究の世界に足を踏み入れることとなる。幼いころからの「とことんこだわる性格」と、学生時代に得た「物事の起点には周りが影響している。だからその事象を見るときは全体を見ないといけない」という視点が相まって、研究を続けていくうちに、肝臓の病気と免疫の関係が詳しく分かってきた。「免疫についてもっと知りたい！」。国内も考えたが、しがらみのないアメリカに留学した。

アメリカでは、「感染症にかかった時に、病原体に対し免疫反応を示す細胞の司令塔の役割を果たすＴ細胞の特性を調べる研究」をしていた。肝臓の病気はＴ細胞が原因で起こっているのではないかと思い、日々研究に明け暮れた。帰国後、研究会で出会った現学長の中西憲司先生との共同研究がきっかけで兵庫医科大学へ入職することになった。

新たな予防医学の確立をめざして

現在は感染免疫の研究以外にも、環境中の微生物による発酵が関係している「プーアル茶」に着目している。

「何千年もの歴史がある中国には、治療や予防に使えるものがたくさんあると思うんです。初めて取り組んだ免疫学は『微生物を排除する仕組み』の研究でしたが、『微生物を活かす研究』も人の役に立つのではないかと思い研究を進めています」

最近の研究では、プーアル茶が肥満予防に役立つかもしれないというデータが出てきた。また、肥満が関係する脂肪性肝疾患のような慢性化すると肝癌に至る難治性疾患に対しても、プーアル茶からの抽出物を体に取り込むことで発症を阻止できるかもしれないという研究を、動物モデルを用いて行っている。研究はようやく緒に就いたばかりだが、この成果をもとに、その細胞・分子メカニズムを明らかにしていくことが今後の目標だという。

「病原体に対する免疫応答は臨床応用、プーアル茶の研究は予防医学につなげたい。研究がうまくいけばハッピー！できたことが次のエンジンです！」。そう語る筒井主任教授は今日も研究に邁進する。

平成２６年度兵庫医療大学 オープンキャンパスを開催

平成２６年８月９日、２３日、２４日の３日間、オープンキャンパスを開催しました。開催を予定していた１０日は台風の接近により中止となりましたが、受験生１，６９３人、同伴者１，１８８人と多くの方にご参加いただきました。

午前特別プログラム

８／９ クラブサークル「HUHS Stage」

本学の軽音楽部とダンス部による１日限りのパフォーマンスを、オープンキャンパス初日にオクタホールにて開催しました。

８／２３ チーム医療特別講義

これからの医療人にとって必要な「チーム医療」について、医師でもある本学の共通教育センター常見講師が特別講義を開講しました。

８／２４ 在学生企画「Campus Life in HUHS」

大学生活にまつわる「授業や実習はどう？」「海外留学ってあるの？」などの質問に、在学生が答える形で分かりやすくお話ししました。

大学全体ガイダンス

オクタホールにて、大学の概要や入試制度、奨学金制度などについてガイダンスを実施しました。今年度は午前・午後と１日２回開催し、多くの方にご参加いただきました。

薬学部 医療薬学科

薬剤師体験（８／９）では、軟膏作り体験や、粒状のチョコレートを薬に見立てて分包体験をしてもらいました。薬学的漢方（８／２３，２４）では、夏バテ予防に効果がある漢方薬成分を含むお茶を数種類用意しました。

看護学部 看護学科

看護の実習施設で、新生児のバイタル測定、点滴の準備や痰の吸引、聴診器で体内の音を聴くなど、様々な実習を在学生スタッフと一緒になって体験していただきました。

リハビリテーション学部 理学療法学科

学科ガイダンスは、在学生スタッフが中心となって実施し、大勢の来場者を前に、物理療法の一種を実演して紹介しました。またストレッチ体験、血圧や心拍数などのバイタルを測定、義足歩行など様々な実習をしていただきました。

リハビリテーション学部 作業療法学科

片方の手が不自由な状態がどれくらい大変なのか、パンケーキを作る過程で、実際に卵を割ったり、包丁を使ったりしながら体感をしてもらいました。また学科別ガイダンスでは、作業療法学科ではどのようなことを学ぶのかを説明しました。

共通教育センター展示コーナー

３学部の基礎教育を支えている共通教育センターは、シーサイドレストランで、人体模型などの展示や、物理実験、授業の様子を写真展示しました。同フロアでは入試個別相談コーナーも設け、受験を控えた高校生や保護者の方が相談に訪れていました。

アデレード大学看護学部との学術交換留学を初めて実施

平成２６年８月１６日から９月６日までの３週間、看護学部１年次生３名、２年次生３名、４年次生４名の計１０名がオーストラリアのアデレード大学へ学術交換留学を行いました。本プログラムは、兵庫医療大学とアデレード大学が学術交流協定を結び、相互に交換留学を行うもので、今回が初めての交換留学になりました。

留学中は、多国籍の学生とともに英語を学んだり、アデレード大学の看護学部生とともに講義や学内演習などを受けたり交流するなどのほか、現地の大学病院への見学実習にも参加することができました。

また、平成２６年１０月６日には、学術交換留学の報告会が開催され、日本とオーストラリアの設備の違いなど、英語で発表を行いました。

学生たちからは、「実施方法を現地の学生に教えてもらい、交流できて良かった」「英語も看護の専門内容も高度で難しかったが、理解できた時に大きな達成感があった」などの感想が寄せられました。

来年２月にはアデレード大学看護学部の学生が本学へ留学する予定です。

本学では、これまでにも毎年１０日間ほどの欧州研修を実施するなど、国際的な視点を備えた創造性豊かな看護をめざして、これからも数々の取り組みを計画していきます。

北京中医薬大学短期留学を実施

平成２６年８月２７日～９月５日までの１０日間、「北京中医薬大学」（中国で伝統医学教育を行う唯一の国立大学）へ、薬学部５年次生３名、３年次生４名、２年次生４名、リハビリテーション学部２年次生４名の計１５名が短期留学しました。

この「北京中医薬大学短期留学プログラム」は、本法人と、中国孔子学院本部が共同設立している「学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院」と兵庫医療大学の共催事業として今回で２回目となります。

留学中は、北京中医薬大学で講義の受講や、大学附属の東方病院で診療の見学など大変貴重な体験をしました。また東方病院薬剤部の見学では、煎じ薬の調剤などを学び、その調剤技術に大変驚いていました。参加した学生からは「中国の医学が紀元前からの歴史を持ち、西洋医学とは異なる強みを持つことを直に学ぶことができてよかった」と語りました。

平成２６年９月２２日には、その報告会があり、短期留学した学生から留学中に経験した様々なことが発表され、最後にはこの短期留学にご尽力いただいた関係者すべての方々に感謝の言葉を述べていました。

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

（単位：千円）

助成団体名	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付額
一般社団法人日本損害保険協会	2014年度交通事故医療に関する一般研究助成	リハビリテーション学部	坂口 顕	820
公益社団法人日本理学療法士協会	平成26年度理学療法にかかわる研究助成	リハビリテーション学部	森沢 知之	500
日本私立看護大学協会	研究助成事業 若手研究者研究助成	看護学部	岡田 公江	300
		看護学部	飯尾 祐加	300
計（4件）				1,920

平成２６年度 早期臨床体験実習（病院実習）開催

平成２６年８月４日から８日にかけて、１年次生を対象とした早期臨床体験実習（病院実習）が、兵庫医科大学病院において実施されました。

実習では、３学部４学科（薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の理学療法学科、作業療法学科）混成の小グループ（４～５名）になって２０の病棟に分かれて病院内各施設の見学や病棟業務を体験しました。

実習終了後の８月９日には、グループごとに今回の実習を通して学んだことについて成果発表会が行われました。病院内の様々な現場を体験し、「チーム医療」の重要性とともに医療専門職者となる心構えを体得し、普段の講義形式の座学では学ぶことができない貴重な経験を積むことができました。

【参加学生の感想（一部）】

- これから医療に関わる中で何が大切で必要なのかを学ぶことができた。もっと医療人として意識していかなければと感じた。（看護学部）
- 自分の目指す医療人としての目標課題が多く見つかり、それを今後の生活でクリアしていきたいと思った。（薬学部）
- 今回の実習を体験して、他職種との連携によって、様々な面で患者さんをサポートできることが分かり、「チーム医療」の大切さを改めて実感した。（リハビリテーション学部）

看護学部３年生対象 社会人スキル対策講座を開催

平成２６年９月３日、看護学部３年次生を対象に後期から始まる長期臨床実習の際に必要となる接遇マナーなどを学ぶため、社会人スキル対策講座をＭ２０２講義室において開催しました。

本学キャリアデザインセンターにてアドバイザーをされているクラウドナインエアラインスクール講師の伊藤千暁氏をお迎えし、「患者・ご利用者さまの視点に立って考える」を柱に、医療接遇の原点ともいえるホスピタリティマインドのポイントについて、挨拶やお辞儀、身だしなみ、言葉遣いなどを通して学びました。

スーツ姿で参加した学生たちは、はじめは緊張した様子でしたが、「マナーについては自信のない部分もあったので今回の講座はとても参考になりました」「敬語の使い方や第一印象の大切さを学ぶことができたのでよかったです」などの感想が多く寄せられ、これから始まる長期臨床実習にすぐに役立つ講座となりました。

薬学部 医療薬学科 東 純一 教授 ご逝去

薬学部 医療薬学科 東 純一 教授におかれましては、かねてより病気療養中のところ、平成２６年９月２０日（土）に御逝去されました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

研究 REPORT リポート

こんな人 メモ

佐賀県生まれ、兄・姉・妹の4きょうだい。吉野ケ里遺跡のほど近く、自然に囲まれた環境で育ち、おっとりした性格ながらもサッカーや野球が得意なスポーツ少年だった。絵を描くのも好きで、校内の大会などでは全校生徒の前で度々表彰されることも。小学生の頃に三重県に引っ越し、高校までを過ごした。妹の持っていた進学雑誌に載っていた、神戸大学に医療技術短期大学部ができるという広告を偶然見て、神戸への憧れもあり同大学への進学を決めた。

大学生活では友人も多く、他学部生との交流も盛んで、自然とチーム医療の考え方が身に着いた。1期生という特別な大学生活を送ったこともあり、兵庫医療大学の立ち上げに係ることになった時には、自身の大学生活を思い出し、感慨もひとしおだった。

趣味は家庭菜園。ナスやトマト、鷹の爪などを植えて育てている。すでに成人している別居の子どもたちとLINEで連絡を取り合ったり、高校生の末っ子とは庭で部活のバスケットボールの練習に付き合ったり、一番リラックスできるのは家族団らんの時間。

患者さんが自分らしく生きられるように

リハビリテーション学部
作業療法学科 教授　山田 大豪

作業療法士としてのスタート

家族や親戚に医療関係者が多く、その仕事ぶりを見て、大変そうだと思いながらも医療職のやりがいを身近に感じていた。そんな中で作業療法士を目指したのは、昔から得意だった図画工作を治療に応用できることに興味を持ったのがきっかけだった。

神戸大学医療技術短期大学部１期生として入学。図画工作を治療的に用いるという当初のイメージとは違い、精神や身体に係る医学的学習の多さに圧倒されながらも、学友には恵まれ充実した大学生活を送った。子どものころから叔父の開業していた診療所の待合室で患者さんと話す機会が多かったため、実習では戸惑うことなく接することができた。

「この仕事に就いたきっかけは、何となくとか偶然だったように思っていましたが、子供の頃に得意だったこと、環境、すべてが今に繋がっていますね」

大学卒業後は、生まれ故郷である佐賀県の白石共立病院に就職し、脳卒中や外傷の患者さんのリハビリを受け持つことになった。

「仕事を始めてみたら、知識はあっても目の当たりにする症状と結びつかず、大学で学んだことを活かすどころか、何も分からない現実に打ちのめされました」

外来や病棟で様々な事例を経験し、知識とのギャップを埋めるよう自習を進めた。そんなある時、精神疾患の患者さんと接する機会があり、精神領域の治療に興味を持った。これまで急性期の対応が多く、患者さんとじっくり向き合いたいと思っていたこともあり、国立肥前療養所（現、肥前精神医療センター）に移り、そこで現在の研究テーマに出会った。

患者さんに本来の自分を取り戻してもらうために ー心のリハビリテーションー

作業療法士の仕事は、病気や怪我で個々の作業ができなくなり、健康的な「作業バランス」を保てなくなった患者さんに対し、原因を明らかにした上で、その人らしい生活が送れるように援助・支援をすること。

「精神的な支援を必要とする患者さんは、一般的には当たり前のように思われる、食事や通勤・通学、就寝という1日の流れの中にもつまずきや苦痛を伴うことがあります」

現代社会では精神面の支援を必要としている人は多い。生き辛さを感じている患者さんに対し、その人に合う作業療法はどのようなものか。治療中のどの段階で、どの程度前向きな考えを持つことができるのか。アンケートなどによりデータを取って蓄積することで、効果的なリハビリに繋げられるよう分析する。女性は自分の居場所があることで安心感を抱く傾向があるのに対し、男性はリハビリの作業を通じて自己実現を感じることに意義を持つ傾向があるなど、データから読み取れる傾向は興味深い。ただ、データでは測ることのできない機微を感じ、患者さんごとにカスタマイズすることが必要だ。

「自身の関わり方ひとつで様々な変化が期待できるので、患者さんには適度な緊張感を持ちながらもリラックスして接しています。具体的な作業を通じて、そのひと時に喜びを感じてもらうことができ、その人らしさを取り戻してくれることが何よりもうれしい瞬間です」

臨床でも教育現場でも、常に心に留めている言葉は、「肩の力を抜いて」。気持ちを安定させておけるよう、自分に余裕を持って自分らしくありたい。それは、患者さんが気持ちを楽に生活できるように、自分らしく生きられるようにという思いにも繋がる。研究としては客観的な判断が容易ではないが、「患者さん自身がそう思えるようになっていただくのが一番ですね」と語る目には優しさがあふれていた。

平成２６年度兵庫県看護功績賞を受賞

平成２６年７月１０日、兵庫県公館にて、兵庫県および公益社団法人兵庫県看護協会主催で開催された平成２６年度兵庫県看護大会において、平成２６年度兵庫県看護功績賞の表彰式が行われました。この賞は、看護業務の向上を図ることを目的に、保健師、助産師、看護師、准看護師で看護業務または保健指導業務に特に貢献した者に対し贈られる賞で、兵庫医科大学病院からは看護部の丸山美津子次長が受賞しました。

受賞にあたり、丸山次長は「まだまだ道半ばで『看護とは』の答えを探し続けている中での受賞でした。これまで続けてきた臨床での看護そのものが評価されたとすれば、当院のナース全員が表彰されたようなものです。皆の代表として、有難く賞をいただきました」と受賞の喜びを述べられました。

クリーンハンドキャンペーンを開催

平成２６年８月２２日～２８日、９月１６日～２２日（土日曜は除く）に、感染対策委員会主催のクリーンハンドキャンペーンを開催しました。全職員（医師、看護師、メディカルスタッフ、病院事務員等の教職員）を対象とし、手指衛生の重要性や消毒方法のレクチャーが行われました。

手指衛生は院内感染予防に重要な対処法です。例年全職員の90％以上が参加しており、今後も病院全体で感染予防に取り組んで参ります。

異なる職種のスタッフが一緒に医療安全対策について考える「多職種協働ワークショップ」を開催

医療人育成センターと医療安全管理部は、医療人のテクニカルな問題のみではなく、様々な職種間でのコミュニケーションエラーによる有害事象を防ぐ目的で「多職種協働ワークショップ」を企画しました。本ワークショップは、医療安全管理に関する全医療人を対象としたもので、本学が掲げるチーム医療の実践に則った取り組みの一つです。参加者には医療安全講習ポイントも付与されます。

多職種相互の役割を知る目的で９月６日に行われたワークショップには、医師や検査技師、メディカルスタッフなど約４０名が参加しました。当日は、兵庫医科大学病院の中で生じた事例を参考にしたシナリオを基に、職種混成のグループごとに「どのような対策が有効か？」などについてワークショップ形式で議論を実施しました。異なる職種のスタッフがそれぞれプロフェッショナルな視点から意見を述べられ、多面的に検討されたレベルの高い対策が発表されました。またプログラムには院内有害事象の紹介も加えられており、参加者が有害事象を身近な存在と認識できる、非常に意義のある取り組みとなりました。

大変好評であったため、異なるシナリオで再度開催する予定です。また今後は、より高度なチームトレーニングも企画されています。興味のある方はぜひご参加ください。

看護学生向け インターンシップを開催

兵庫医科大学病院に看護師として就職を希望する学生を対象にしたインターンシップを今年も開催しました。８月１日の１日コースと１４～１５日の２日間コースがあり、３月の開催と合計すると約７０名が参加しました。中には四国や九州、沖縄など遠方からの参加も多くありました。

実習服に着替えた学生たちはそれぞれ希望する部署で看護体験をスタート。最初は慣れない現場に緊張している人もいましたが、若手の先輩ナースが１対１で優しく丁寧に教えることで、部署の明るい雰囲気の中にすぐに溶け込んでいる様子でした。

２日間コースでは懇親会を開き、師長や先輩ナースと気兼ねなく話せる機会を設けました。看護師としての悩みやキャリアビジョンなどをじっくりと聞ける有意義な時間になったようです。

参加者の感想では、「大学病院はバタバタと忙しいイメージがあったが、とても丁寧で落ち着いた看護を行っていた」と当院に対する印象の変化をあげる声や、「先輩ナースと話すことで看護師としての楽しさや喜びを再発見できた」と、自身の仕事観にまで良い影響があったという嬉しい声もありました。

防災訓練を実施しました

平成２６年９月２６日、急性医療総合センターを中心に防災訓練を実施しました。この度の訓練は、災害拠点病院として、局地災害が発生した場合の当院受入体制の訓練を行うとともに、現行の診療環境（急性医療総合センター・電子カルテ等）の検証を行うことを目的として実施したものです。

当日は、西宮市を震源とする直下型地震（震度５強）が発生し、阪神間各所で建物の倒壊・火災が発生したという想定の下、医師、看護師、メディカルスタッフ、事務員、学生合わせて約２００名が訓練に参加しました。まず災害対策本部が院内の被災状況を把握し、病院全体で負傷者を受け入れる決定を下しました。次に、西宮市、芦屋市、尼崎市の消防局にもご協力いただき、消防局の救急車および当院のドクターズカーにて模擬患者を搬送し、治療の優先度を決めるトリアージを行った上で、それぞれの診療エリアにて模擬診療を行いました。

急性医療総合センターや電子カルテなど、最新の医療環境の下でも、適切かつスムーズに対処できるよう防災意識を高める訓練となりました。

搬送・トリアージ

軽症者コーナー

災害対策本部

兵庫医大フロンティア医療セミナーを開催しました

第24回（平成26年9月11日開催）

■がん治療における歯科的サポート

コーディネータ
歯科口腔外科 診療部長 岸本 裕充

テーマ：インプラントを用いた顎義歯治療
講　師：歯科口腔外科 臨床教授 本田 公亮

テーマ：歯科補綴装置を用いたオーラルリハビリテーション
講　師：歯科口腔外科 講師 安川 陽子

テーマ：がん患者に対する周術期オーラルマネジメント
講　師：歯科口腔外科 診療部長 岸本 裕充
　　歯科口腔外科 歯科衛生士 蔵下 舞

七夕コンサートを開催

ささやま医療センターの玄関ホールコンサート企画としては真夏の恒例となっている「七夕コンサート」が、平成２６年８月７日に開催されました。

今回も病院ボランティアのささやま医療センター支援グループ「ささゆり」の協力により、通常より１５分延長して、演者１００名程による大変充実したプログラムで開催されました。

「ささゆり」代表者の挨拶の後、ちびっこ演奏として篠山市内の幼児および小学生４名による見事なピアノ演奏、「兵庫県立篠山鳳鳴高校デカンショバンド」によるデカンショ演奏が披露されました。

さらに、篠山市内で活動している総勢７０名になる唱歌グループ「玉水童謡唱歌の会・みたけの里うぐいす」により数々の有名な童謡が合唱された後、玄関ホールに詰めかけた患者さんや病院職員と共に「七夕さま」も合唱しました。最後に歌と踊りと題して、「祇園小唄 円山会」によるデカンショ節なども披露され、終始楽しい充実したひとときを過ごしました。

ささやま医療センター玄関ホールコンサートは、毎年３～４回程度開催されており、次回は１２月にクリスマスコンサートが予定されています。

第1回クリニカルパス大会を開催

平成２６年９月５日、当センターとして第１回となるクリニカルパス大会を開催し、５３名が参加しました。

（１）「内視鏡下大腸ポリープ切除術」クリニカルパスのツリー化の説明・考察
　演者：内科（消化器科）南堂 吉紀 病院助手

（２）看護師サイドからみた「内視鏡下大腸ポリープ切除術」クリニカルパスの説明・考察
　演者：３階病棟東 長澤 眞弓 副看護師長

（３）Ｑ＆Ａ方式による「バリアンスについて」の説明・ディスカッション
　演者：下村 壯治 副院長、３階病棟西 溝端 美保 看護師長、３階病棟東 宮定 幸子 看護師長

病院情報システム障害対策訓練を実施

平成２６年８月１８日、昨年度より改定した「医療情報システム障害時の事業継続計画」に基づき、病院情報システム障害対策訓練を実施しました。訓練では、院外処方箋の発行フローと時間内のシステム障害時の連絡・対応フローの確認を行いました。医師・看護部職員・医療技術部職員・事務職員など６３名が参加しました。

中学生を対象とした夏休み病院体験セミナー開催

将来を担う篠山市内の中学生の皆さんに、医療への関心を持っていただき、将来の職業選択の１つとして医療職を紹介させていただくために、この夏も「夏休み病院体験セミナー」を平成２６年８月２０日に開催しました。篠山市内の中学生に呼びかけ、男子生徒１名、女子生徒６名の参加がありました。

自己紹介および看護部長の挨拶の後、病院長から「男の子・女の子…そして命」と題したセミナーが行われました。男性と女性の違い、お互いを理解することの大切さ、生まれてくる命の大切さについて学んでいただきました。

また、「手をきれいに洗いましょう」と題して、担当看護師長による手洗い実習が行われました。洗い残しがないかチェックも行われ、普段日常で十分に洗えていない現状や、感染防止の観点からも正しい手洗いの大切さを学んでいただきました。

さらに、「病院食を看護師長と共に体験しよう」と題して、各看護師長とともに病院食の試食が行われ、患者さんの病状に合わせた制限食が多数設けられているなど、厳しい管理下で調理されていることなどが説明されました。

午後からは、「看護師の仕事を体験しよう」と題して、生徒さんの希望に基づき、各部署に分かれて看護師業務を体験した後、最後に「講義及び意見交換会」として、看護部次長から看護師など医療に携わる職に就くための進路についての説明や、事務からは奨学金制度についての説明が行われました。

参加した生徒さんの中には医師を志望する方もおられました。来年度も引き続き充実したセミナーを開催したいと考えています。

ささやま医療センター
ささやま老人保健施設

平成２６年度第１回消防訓練を実施

消防法で年２回の実施が義務付けられている今年度第１回目の消防訓練が、平成２６年１０月３日に実施されました。深夜帯午前０時に４階病棟デイルームからの出火を想定し、篠山市消防本部立会いの下で実施されました。

通報、初期消火及び避難誘導の習得と防火意識向上のため、教職員および委託業者社員総勢４０名が参加しました。今回もアクションカードを導入し、手渡されたカードに記載された指示に基づき行動することで、各自の役割分担を明確にして、迅速かつ効率的に避難することが出来ました。また、同様の訓練が併設の「ささやま老人保健施設」でも実施されました。

両施設の訓練終了後、雨天のため、院内消火設備の屋内消火栓や消化器の取り扱いについて、消防本部から指導も受けました。意外に知られていなかった消火機能について、参加者の強い関心を得ていました。さらに教職員だけの検討会も開催され、訓練中の些細な不備、疑問や確認など、訓練対応中の感覚が醒めない間に実践を想定した活発な意見交換が行われました。

ささやま老人保健施設 納涼祭を開催

平成２６年８月２３日、第１５回ささやま老人保健施設納涼祭を開催しました。

施設内を提灯などで飾り、納涼祭の準備を始めていると、早速デカンショ踊りを始める利用者もおられ、お祭り気分一杯の中、毎年恒例の篠山産業高校ブラスバンド部による演奏で、待ちにまった納涼祭が始まりました。

今年の納涼祭は食事メニューを充実させ、屋外にも食事スペースを設けました。更に、夏祭りを実感していただくために職員が汗を流し、たくさんのテントも設営しました。お天気にも恵まれ、お祭りを存分に楽しんでいただけたようで、参加したご家族からも「外で食事ができてよかった」等、多くの喜びの声や沢山の笑顔をいただきました。毎年恒例となっている新家理事長の似顔絵コーナーも盛況で、利用者の方々は描きあげられた似顔絵を手に、嬉しそうな笑顔を浮かべられていました。

また、篠山東雲高校バンド部の皆様、南京玉すだれのご夫婦、デカンショ保存会の皆様、兵庫医科大学 医学部学生５名、兵庫医療大学の看護学部生５名が、ボランティアで納涼祭を盛り上げてくださいました。

孔子学院設立１０周年記念「孔子学院の日」イベントを開催

「孔子学院の日」とは、孔子学院設立１０周年を記念して、全世界の孔子学院（課堂）において中国語や中国文化への理解を高めるために行われるイベントです。本学院では、中医薬孔子学院としての役割・特色を活かした活動を関西地区に広めることを目的として、学術講演会、市民健康講座および中国文化体験を開催しました。

今回のイベントには、本学中医薬孔子学院の提携校である北京中医薬大学より、徐学長、谷副学長、刘学部長など６名の先生方と、学生８名をお招きし、それぞれ講演や中国文化体験の講師を務めていただきました。

学術講演会「東西医学の融合」

平成２６年９月２６日に兵庫医療大学オクタホールにて学術講演会が開催され、北京中医薬大学学長による基調講演をはじめ、近畿大学東洋医学研究所所長による特別招聘講演など、４名の先生から「東西医学の融合」をテーマに、東西医学の歴史や、臨床・研究・教育現場での現状や課題について講演が行われました。

当日は、逐次通訳付きで、学内外より約３００名の出席があり、質問も交えながら盛会の内に終了しました。

基調講演： Where is our immune system coming from? （免疫システムの成り立ち） 徐安龙（北京中医薬大学 学長）	講演： Evidence-based approach in traditional Chinese medicine. （中国伝統医学におけるエビデンスに基づくアプローチ） 刘建平（北京中医薬大学基礎医学部 学部長）
特別招聘講演： もう一つの医学 － 古くて新しい漢方治療 「臨床・研究・教育について」 武田卓（近畿大学東洋医学研究所 所長・教授）	講演： 漢方医薬の科学的理解、その現状と課題 戴毅（兵庫医療大学薬学部 准教授）

懇親会

学術講演会の後には、日中の孔子学院関係者が一堂に会し、ポートピアホテルにて懇親会が行われました。懇親会では、北京中医薬大学の徐学長より、新家理事長へ掛け軸が贈呈され、さらなる友好を深めました。また、北京中医薬大学の学生８名による演武や民族楽器の演奏が行われました。学生たちは、それぞれが個人や団体で受賞歴を持つ腕前で、若さ溢れる力強いパフォーマンスで会場を魅了しました。

市民健康講座・中国文化体験

平成２６年９月２７日、兵庫医科大学にて、一般の方々を対象とした市民健康講座および中国文化体験が行われました。今回の講座を通じて中国語、食文化、太極拳などを体験いただき、中国文化の理解を深めていただくことを目的として様々な催しを開催しました。

〈市民健康講座〉

１．中国伝統医学（中医学）の健康に対する考え方
２．中医学のよく使う健康養生法
　谷暁红（北京中医薬大学 副学長）

〈中国文化体験〉

中国茶体験

菊花茶、バラとクコ、ウーロン茶、ジャスミン茶の４種類の中国茶の試飲と、漢方成分を含んだお菓子、北京のお菓子を試食していただきました。

演武・演奏

北京中医薬大学の学生９０００人の代表として来日した８名の学生による演武と民族楽器の演奏をお楽しみいただきました。美しく、力強く、若いエネルギーに会場は大きな拍手に包まれました。

太極拳体験

武術を披露した北京中医薬大学の学生が講師となり、太極拳の動作から抜粋した、短時間でできる太極拳を体験していただきました。

中医薬体験

中医薬孔子学院 鄔副学院長によるお灸、吸い玉、耳ツボなどを体験していただきました。北京中医薬大学開発の最新式お灸を使用するなど、大変好評をいただきました。

中国文化体験

孔子学院本部から寄贈された体験型モニターシステムを使用し、中国の世界遺産や文化の紹介など、モニターを通して中国文化を体験していただきました。

中国語講座

中国語での簡単な単語や数字、文章などを練習した後、模擬買い物体験を通じて日常的な中国語会話を楽しんでいただきました。

第５回リハビリテーション関連施設合同セミナーを開催

平成２６年８月３０日、兵庫医療大学オクタホールにて第５回学校法人兵庫医科大学 リハビリテーション関連施設合同セミナーが開催されました。このセミナーは、兵庫医科大学、兵庫医療大学、ささやま医療センターのリハビリテーションにかかわる教職員が、様々な立場から教育・研究・診療に係るそれぞれの取り組みについて情報を共有し、相互に研鑽を図ることを目的として開催されています。

今年度は永生病院名誉院長・慶應義塾大学名誉教授の千野 直一先生をお招きし、「リハビリテーション医学研究の勧め ～物理医学とリハビリテーション～」をテーマに、特別講演を行っていただきました。また、一般講演では、３施設から各１題ずつの講演が行われました。

５回目という節目を迎えた今回は、例年行っている特別講演・一般講演に加え、合同セミナーで初めての「シンポジウム」を行い、法人内リハビリテーション関連施設の教職員と兵庫医療大学リハビリテーション学部の４年生を中心とした学生合わせて２００名以上が参加し、非常に充実した会となりました。

兵庫医科大学開学４０周年記念事業募金

「兵庫医科大学開学４０周年記念事業」のための募金活動を平成２４年７月に開始し、教職員をはじめ、後援会（保護者）は言うに及ばず、幅広い方々から温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚く御礼申し上げます。

本法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、改めて感謝の意を表したいと存じます。

皆様からご寄付いただきました寄付金については、兵庫医科大学の教育研究施設等の充実のために利用させていただきます。

本学は、大学の合理化推進等により、これからも全力で必要資金確保に向けての自主的努力を重ねてまいりますが、関係者の皆様におかれても更なるご支援、お力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

募金推進課　H24 .7. 1～H26.8.31

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　　計	
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額
申　込	178	933,135,000	441	290,615,345	619	1,223,750,345
入　金	178	882,455,000	439	220,349,136	617	1,102,804,136

寄付申込者ご芳名･法人名一覧

H26.7.1 ～H26.8.31

企業等法人　（３社）

●ご芳名・金額記載　（２社）
30,000,000円　兵庫医科大学後援会 様
100,000,000円　株式会社ｴｲﾁ･ｱｲ 様

●ご芳名のみ　（１社）
鹿島建物総合管理株式会社 様

同窓会緑樹会　（２名）

●ご芳名・金額記載　（1名）
50,000円　近藤 明喜子 様

●ご芳名のみ記載　（1名）
西村 暁 様

その他　（１名）

●ご芳名・金額記載　（1名）
100,000円　兵庫医科大学ﾗｸﾞﾋﾞｰ部OB会 様

教職員　（３名）

●ご芳名・金額記載　（１名）
500,000円　竹島 泰弘 様
100,000円（追加）　三村 治 様（H24.06　1,200,000円寄付済）

●ご芳名のみ記載　（２名）
内藤 泰 様
飯島 尋子 様

学校法人兵庫医科大学基金兵医・萌えの会 状況報告

本学校法人は、平成２１年４月１日に学校法人兵庫医科大学基金を創設し、継続的な募金活動を開始するとともに、基金の活動を支援する組織として学校法人兵庫医科大学基金兵医・萌えの会を設け、その会員の皆様から会費を寄付金のかたちで募り、基金の運営に寄与することとしております。

寄付活動を開始して以来、患者様をはじめ、後援会会員、緑樹会会員、名誉教授、退職者は言うに及ばず、協力医療機関や関連企業等の幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様方からご寄付いただきました貴重な浄財は、教育・研究環境の整備や学生への奨学金等の支援を通じて、社会への貢献・還元のために使用させていただきます。

今後とも引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

募金推進課　H21. 1. 1～H26. 8.31

区　分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合　　計	
	件　数	金　額	件　数	金　額	件　数	金　額
申　込	258	47,005,000	798	58,630,498	1,056	105,635,498
入　金	258	47,005,000	789	58,250,498	1,047	105,255,498

寄付申込者ご芳名･法人名一覧

H26.7.1 ～H26.8.31

企業等法人　（３社）

●企業名・金額記載　（２社）
500,000円　株式会社ｴｲﾁ･ｱｲ 様
100,000円　有限会社ｴｲﾁ･ｱｲ･ｻｰﾋﾞｽ 様

●ご芳名のみ　（１社）
ｱﾙﾌﾚｯｻ株式会社

教職員　（３名）

●ご芳名のみ　（３名）
松本 順司 様
森田 泰夫 様
鈴木 敬一郎 様

その他個人　（34名）

●ご芳名・金額記載　（６名）
50,000円　大浦 明子 様
500,000円　桑田 純一郎 様
100,000円　小松 健男 様
50,000円　坂本 惠美子 様
50,000円　飯田 美奈子 様
50,000円　角井 義夫 様

●ご芳名のみ　（11名）
松本 洋子 様
井上 整憧 様
馬場 敦子 様
勝木 キミ子 様
石田 園治 様
石田 二三子 様
西村 成雄 様
西村 多嘉子 様
日下部 昇 様
日下部 管子 様
山本 朗 様
（匿名　17名）

株式会社エイチ・アイからの寄贈

学校法人出資の事業会社 株式会社エイチ・アイより、兵庫医科大学、兵庫医療大学、兵庫医科大学病院、ささやま医療センターに、医療機器や古医書など多数の寄贈の品をいただきました。

平成２６年９月２４日に行われた、兵庫医科大学、兵庫医科大学病院、ささやま医療センターへの寄贈式では、株式会社エイチ・アイの森田取締役社長より中西学長、難波病院長、福田病院長へ目録が贈呈されました。９月３０日に行われた兵庫医療大学への寄贈式では、森田取締役社長より馬場学長へ目録が贈呈されました。

これまでにも多数の医療機器などを寄贈いただいており、今回寄贈いただいた物品も患者さんの療養環境の向上や、学生教育に大切に活用させていただきます。

〈寄贈いただいた物品一覧〉

兵庫医科大学	古医書「メルデルフォルト『日本滞在記』」（２分冊）
兵庫医療大学	古医書「医心方（安政版復刻）」「解体新書（復刻版）」「蔵志(復刻版)」、展示ケース一式
兵庫医科大学病院	・浴室用ストレッチャー　１台 ・空気清浄機　２台 ・車椅子 酸素ボンベ金具付　２台
ささやま医療センター	・エアーストレッチャー「ラップ・ローバル」　２台 ・ティルト＆リクライング車椅子　１台 ・簡易モジュール車椅子　３台

メルデルフォルト『日本滞在記』

兵庫医科大学

兵庫医療大学

兵庫医科大学病院

ささやま医療センター

規程等の制定・改正・廃止（規程等の全文は学内ネットに掲載）

No.	項　　目	制定・改正・廃止の趣旨	制定・改正・廃止日
1	学校法人兵庫医科大学保健管理委員会規程	教職員・学生の健康増進策を推進し、保健衛生管理を行うため、制定	平成26年8月 1日
2	兵庫医科大学保健管理センター規程	教職員・学生の健康の保持増進、安全衛生水準の向上等のため、制定	平成26年8月 1日
3	兵庫医科大学保健管理センター細則	保健管理センターの業務の詳細を定めるため、制定	平成26年8月 1日
4	兵庫医科大学保健管理センター運営委員会規程	保健管理センターの業務を推進するため、制定	平成26年8月 1日
5	職員相談室運営委員会規程	兵庫医科大学保健管理センターの開設に伴い、その運用に合わせるため、改正	平成26年8月 1日
6	職員相談室規程	同上	平成26年8月 1日
7	兵庫医科大学安全衛生管理組織規程	同上	平成26年8月 1日
8	兵庫医科大学安全衛生委員会規程	同上	平成26年8月 1日
9	健康医学クリニックの開設準備に係る委員会の設置に関する規程	委員の構成メンバーに看護部長を追加するため、改正	平成26年6月 6日
10	学校法人兵庫医科大学研究推進戦略本部規程	法人内の先進的な研究活動を推進するため、制定	平成26年8月 1日
11	学校法人兵庫医科大学共同研究支援センター規程	共同研究を促進し、法人内の研究促進に資する具体的施策を企画立案するため、制定	平成26年8月 1日
12	学校法人兵庫医科大学臨床研究支援センター規程	治験を含む臨床研究を促進するための具体的な施策を実施するとともに、臨床研究に関する外部委託機関、共同研究機関との折衝・調整機能を一元的に行うため、制定	平成26年8月 1日
13	学校法人兵庫医科大学業務改善推進制度に関する実施要領	業務の品質向上、効率化、合理化を図るとともに、教職員の法人運営への参加意識・勤務意欲を高めるため、制定	平成26年7月 1日
14	兵庫医科大学西宮教職員共済会運営規約	私学事業団の掛金免除期間は会費を免除とするため、改正	平成26年4月 1日
15	学校法人兵庫医科大学事務組織規程	学術研究支援部の新設による、事務組織・事務分掌の一部変更に伴い、改正	平成26年8月 1日
16	学校法人兵庫医科大学医療人育成センター規程	主任・副主任の役職を設置することで組織体制を明確にし、またセンター兼務教員の任期に関する規程を削除するため、改正	平成26年7月15日
17	学校法人兵庫医科大学医療人育成センター規程	構成員の一部変更のため、改正	平成26年7月15日
18	医薬品・医療材料選定協議会規程	法人が有する全医療施設の一体的・効率的運用推進のため設置された病院事業管理者を委員長とするため、改正	平成26年7月15日
19	学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程	学校法人兵庫医科大学事務組織規程の一部改正、利益相反に関する自己申告書の様式の一部変更に伴い、改正	平成26年8月 1日
20	校務印章取扱規程	「学校法人兵庫医科大学学術研究支援部長之印」を作成するため、改正	平成26年8月 1日
21	学校法人兵庫医科大学共同研究規程	学校法人兵庫医科大学事務組織規程の一部改正に伴い、改正	平成26年8月 1日
22	学校法人兵庫医科大学規則等管理規程	同上	平成26年8月 1日
23	学校法人兵庫医科大学ハラスメント防止等に関する規程	同上	平成26年8月 1日
24	学校法人兵庫医科大学コンプライアンス規程	同上	平成26年8月 1日
25	学校法人兵庫医科大学コンプライアンス委員会規程	同上	平成26年8月 1日
26	個人情報保護委員会規程	同上	平成26年8月 1日
27	学校法人兵庫医科大学公的研究費管理・監査規程	同上	平成26年8月 1日
28	学校法人兵庫医科大学発明規程	同上	平成26年8月 1日
29	発明委員会規程	同上	平成26年8月 1日
30	学校法人兵庫医科大学成果有体物取扱規程	同上	平成26年8月 1日
31	学校法人兵庫医科大学受託研究規程	同上	平成26年8月 1日
32	学校法人兵庫医科大学公的研究費取扱規程	同上	平成26年8月 1日
33	兵庫医科大学研究医コース運営委員会規程	研究医コースの円滑な運営と研究医養成に係る奨学金貸与者へのキャリア支援を図るため、制定	平成26年6月 1日
34	学生保健室規程	兵庫医科大学保健管理センターの開設に伴い、その運用に合わせるため、改正	平成26年8月 1日
35	学生相談室規程	同上	平成26年8月 1日
36	西宮キャンパス禁煙推進委員会規程	西宮キャンパスにおける禁煙推進活動をさらに強化するため、制定	平成26年7月 1日
37	兵庫医科大学学則	学科目「輸血学」を廃止し、新たに講座として「輸血・細胞治療学」に改編するため、改正	平成26年11月27日(施行) 平成26年8月1日(適用)
38	共同利用研究施設運営委員会規程	学校法人兵庫医科大学事務組織規程の一部改正に伴い、改正	平成26年8月 1日
39	兵庫医科大学遺伝子組換え実験安全管理規程	同上	平成26年8月 1日
40	兵庫医科大学廃液処理委員会規程	同上	平成26年8月 1日
41	兵庫医科大学動物実験施設運営委員会規程	同上	平成26年8月 1日
42	兵庫医科大学動物実験委員会規程	同上	平成26年8月 1日
43	兵庫医科大学病原体等安全管理委員会規程	同上	平成26年8月 1日
44	兵庫医科大学病原体等安全管理規程	同上	平成26年8月 1日
45	兵庫医科大学遺伝子治療臨床研究審査委員会規程	同上	平成26年8月 1日
46	兵庫医科大学倫理委員会ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門小委員会規程	同上	平成26年8月 1日
47	兵庫医科大学遺伝子治療臨床研究審査委員会安全・効果評価・適応判定部会規程	同上	平成26年8月 1日
48	兵庫医科大学における研究活動に係る不正行為に関する取扱規程	同上	平成26年8月 1日
49	兵庫医科大学防火・防災管理規程	委員の任期の一部変更のため、改正	平成26年8月 1日
50	兵庫医科大学病院治験センター規程	学校法人兵庫医科大学臨床研究支援センター規程の制定に伴い、廃止	平成26年8月 1日
51	兵庫医科大学病院治験センター運営委員会規程	同上	平成26年8月 1日
52	認知症疾患医療センター運営委員会規程	病院規程の一部改正、診療科名の一部変更、人事異動等に伴い、構成員を一部変更するため、改正	平成26年7月 4日
53	兵庫医科大学病院臨床研究審査委員会規程	学校法人兵庫医科大学事務組織規程の一部改正に伴い、改正	平成26年8月 1日
54	褥瘡対策委員会規程	褥瘡予防、発生した褥瘡の対応のため、制定	平成26年7月15日
55	兵庫医科大学ささやま居宅介護支援事業所が行う指定居宅介護支援事業に関する運営規程	適正な運営確保のために人員・管理運営に関する事項を定め、適正な支援事業を提供するため、制定	平成26年7月 1日
56	兵庫医科大学ささやま居宅介護支援事業所が行う指定特定相談支援事業に関する運営規程	同上	平成26年7月 1日
57	兵庫医科大学ささやま居宅介護支援事業所運営規程	兵庫医科大学ささやま居宅介護支援事業所が行う指定居宅介護支援事業に関する運営規程・同指定特定相談支援事業に関する運営規程の制定に伴い、廃止	平成26年7月 1日

■学校法人兵庫医科大学　■兵庫医科大学　■兵庫医科大学病院　■兵庫医科大学ささやま医療センター　■兵庫医療大学

学校法人兵庫医科大学

報道機関への出演・掲載

本学の取り組みや医療関連業務、医師等に対する取材、報道機関への出演・掲載情報をお知らせします。

本学ホームページにも最新情報を掲載しています！ 兵庫医大　広報　テレビ放送 検索　兵庫医大　広報　新聞掲載 検索

テレビ・ラジオ出演情報　８月から９月

放送局	番組	掲載日	関連者	概要
フジテレビ	「めざましテレビ」	8月 4日	小児科 服部益治教授	熱中症に関する特集にて、車中のエアコンによる脱水症状や熱中症について、解説した内容が放送されました。
毎日放送	「ちちんぷいぷい」	8月 5日	小児科 服部益治教授	夏の食中毒に関する特集にて、食中毒の原因や予防方法などについて、解説した内容が放送されました。
NHK	「きょうの健康」	8月 6日	皮膚科 夏秋優准教授	危険な虫刺されに関する特集にて、マダニのSFTSウイルスやマダニの対処法などについて、スタジオで解説した内容が放送されました。
朝日放送	「キャスト」	8月12日	小児科 服部益治教授	夏の低体温症に関する特集にて、原因や症状、低体温症の実験などについて、解説した内容が放送されました。
毎日放送	「医のココロ」	8月16日	リハビリテーション部 道免和久主任教授	脳卒中のリハビリテーションに関する特集にて、廃用症候群やCI療法などについて、解説した内容が放送されました。
毎日放送	「ちちんぷいぷい」	8月18日	小児科 服部益治教授	遺伝子検査に関する特集にて、成人病の予防につながるなどのメリットや、必要のない手術を受けたり、本来のリスクを見逃す可能性があるなどのデメリットについて、解説した内容が放送されました。
BS朝日放送	「おはよう日曜診療所」	8月24日	消化管内科 三輪洋人主任教授	胃の不快感や痛みの症状が出る機能性ディスペプシアについて、症状や治療法などを解説した内容が放送されました。
TBS	「ひるおび！」	8月26日	消化管内科 三輪洋人主任教授	2014年8月26日の朝日新聞朝刊の機能性ディスペプシアに関する記事について、記事内で解説した内容が放送されました。
朝日放送	「キャスト」	9月 8日	小児科 服部益治教授	乳児の病気の治療とマッサージの因果関係の有無などについて、解説した内容が放送されました。
読売テレビ	「ウェークアップ！プラス」	9月20日	生理学講座生体情報部門 西崎知之主任教授	認知症患者の現状や治療法などを特集したコーナーにて、西崎主任教授が研究している「DCP-LA」について紹介され、認知症に対する新薬の開発についてコメントした内容が放送されました。

新聞・雑誌等 掲載情報　８月から９月

掲載媒体	掲載日	関連者	概要
読売新聞(朝刊)	8月 3日	兵庫医科大学病院	「病院の実力」(肺がん)において、兵庫医科大学病院の治療実績(2013年)が掲載されました。
読売新聞(朝刊)	8月10日	兵庫医科大学病院	兵庫医科大学病院にドクターカーが導入されたというお知らせが掲載されました。
日経メディカル8月号	8月10日	消化管内科 三輪洋人主任教授	胃もたれや早期満腹感などの症状があらわれる「機能性ディスペプシア」に関する記事にて、診断法や治療法などについて、解説した内容が掲載されました。
毎日新聞(朝刊)	8月17日	ささやま医療センター	学校検診でのピロリ菌検査導入に関する記事にて、篠山市と兵庫医科大学ささやま医療センターとの共同研究調査の内容などについて掲載されました。
読売新聞(朝刊)	8月21日	看護部 西村裕美子 がん看護専門看護師	「がん患者の家計応援」と題した記事にて、がん治療に専念できる経済的環境をつくることの重要性などについて、コメントした内容が掲載されました。
産経新聞(朝刊)、神戸新聞(朝刊)	8月21日	免疫学・医動物学 善本知広 主任教授	局所性アレルギー性鼻炎に関する記事にて、「もともとアレルギー疾患になりやすい体質ではない人が発症するアレルギー性鼻炎の仕組み」について、解明した内容などが掲載されました。
朝日新聞(朝刊)	8月26日	消化管内科 三輪洋人主任教授	つらい胃もたれや胃痛が続く「機能性ディスペプシア」の対処法などについて、コメントした内容が掲載されました。
毎日新聞折込み(奥様メモ・カレンダー)	8月26日	形成外科 垣淵正男主任教授	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、監修を行った「昔ながらの体の常識ウソ？ホント？ vol.9【傷と消毒薬】」と題された記事が掲載されました。
産経新聞(朝刊)	8月26日	兵庫医科大学 中西憲司学長	兵庫医科大学が特集され、中西憲司学長の挨拶、沿革や独自の教育内容などが掲載されました。
神戸新聞(朝刊)	8月29日	兵庫医療大学 総務グループ 有賀悠歩事務員	8月28日に神戸市内で行われた、災害時の対応や被災地支援のノウハウについて兵庫県内の大学職員が学ぶ研修会について紹介した記事にて、研修会の参加者としてのコメントが掲載されました。
朝日新聞(朝刊)	9月 2日	小児科 服部益治教授	高齢者の体内の水分量と熱中症との関係について、コメントした内容が掲載されました。
読売新聞(朝刊)	9月 7日	兵庫医科大学病院 乳腺・内分泌外科 三好康雄主任教授	「病院の実力」(乳がん)において、兵庫医科大学病院の治療実績(2013年)と、三好主任教授が症状や特徴について解説した内容が掲載されました。
毎日新聞(朝刊)	9月 9日	薬学部 安屋敷和秀教授	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにて、『認知症と生活習慣病』と題し、脳の循環を改善する物質などについて、寄稿した内容が掲載されました。
産経新聞(朝刊)、神戸新聞(朝刊)、日本経済新聞(朝刊)、共同通信、茨木新聞(web)、日本工業新聞(web)、マイナビニュース	9月10日	兵庫医科大学	羊膜由来の再生医療用製剤に関して、2018～19年を目処に移植片対宿主病（GVHD）の臨床試験を兵庫医科大学で行うと発表した記事が掲載されました。
コープステーション	9月10日	消化管内科 三輪洋人主任教授	「腸からキレイに、健康に！」と題された記事にて、腸の働きや仕組みなどについて解説した内容が掲載されました。
神戸新聞（朝刊）	9月18日	眼科 増田明子助教	「顔面けいれん」に関する記事にて、症状や原因、治療法などについて、解説した内容が掲載されました。
産経新聞(朝刊)、読売新聞(朝刊)、神戸新聞(朝刊)、共同通信、北海道新聞(web)、秋田魁新報(web)、上毛新聞(web)、静岡新聞(web)、沖縄タイムス(web)、日本工業新聞(web)	9月18日	産科婦人科学 澤井英明准教授	京都大学iPS細胞研究所などと共同研究し、「軟骨の病気に効く高脂血症薬」をiPS細胞を使って発見したという記事が掲載されました。
毎日新聞(朝刊)	9月24日	薬学部 天野学教授	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにて、『臨床系教員』と題し、学生が大学で臨床現場の感覚を身につけることなどについて、寄稿した内容が掲載されました。
毎日新聞折込み(奥様メモ・カレンダー)	9月25日	循環器内科 増山理主任教授	「保存版 健康質問箱」のコーナーにて、監修を行った「昔ながらの体の常識ウソ？ホント？ vol.10【高血圧と塩分】」と題された記事が掲載されました。
産経新聞(朝刊)、読売新聞(朝刊)	9月27日	兵庫医科大学病院	9月26日に兵庫医科大学病院で学生や医師、看護師をはじめとした医療従事者、事務職員など約200名が参加して行われた防災訓練の様子が掲載されました。
毎日新聞(朝刊)	9月30日	薬学部 清宮健一教授	「キャンパス通信ポーアイ4大学連携講座」コーナーにて、『生活習慣病』と題し、日本人の食生活と生活習慣病の関連などについて、寄稿した内容が掲載されました。

教職員の皆さんへ　広報課では法人全体の報道機関などへの出演・掲載を把握し、ホームページや広報誌を通して皆様にご案内させていただいております。報道機関等から、広報課を介さずに取材依頼や掲載許諾があった場合は総務企画部広報課へご連絡ください。

広報２２７号 訂正について

広報227号7ページに掲載の「平成26年度教員研究費助成配分者」において、下記1行の掲載が抜け落ちておりました。訂正してお詫びいたします。

氏　名	所属講座等	年齢	職名	研究課題	所属長
正木 充	臨床検査医学・部	41	講師	心血管拡張機能障害にバイオマーカーを用いた病態解明と治療戦略	小柴 賢洋

平成２６年１１月～１２月 主な行事予定

11月

1日	兵庫医療大学	推薦入学試験（専願公募制）
2日	兵庫医療大学	推薦入学試験（公募制Ａ日程）
8日	ささやま医療センター	地域医療に関する同窓生懇話会
9日	兵庫医科大学	推薦入学試験（一般公募制・地域指定制）
11日	兵庫医療大学	推薦入学試験（専願公募制・公募制Ａ日程）合格発表
15日	兵庫医科大学	推薦入学試験（一般公募制・地域指定制）合格発表
15-16日	兵庫医科大学	第43回醫聖祭（大学祭）
16日	兵庫医療大学	入試対策講座＆大学見学会
17日	兵庫医療大学	仕事研究セミナー（理学療法学科）
19日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「大腸癌検診を受けよう！」
29日	兵庫医療大学	推薦入学試験（公募制Ｂ日程）
日未定	兵庫医療大学	仕事研究セミナー（薬学部）
日未定	ささやま医療センター	ＪＲ西日本主催のお客様救済訓練

12月

3日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「気になる尿検査」
5日	兵庫医療大学	推薦入学試験（公募制Ｂ日程）合格発表
7日	兵庫医療大学	薬学部４年生対象薬学共用試験（ＯＳＣＥ）
8日	兵庫医科大学	実験動物慰霊祭
15日	学校法人兵庫医科大学	利益相反セミナー
17日	兵庫医科大学病院	市民健康講座「肺癌の外科治療」
25日	兵庫医療大学	第３回学術講演会（リハビリテーション学部 理学療法学科 野崎園子）
26日	兵庫医療大学	社会人スキル対策講座（リハビリテーション学部）
日未定	兵庫医療大学	仕事研究セミナー（看護学部）
日未定	兵庫医療大学	公務員試験対策講座（全学部）
日未定	ささやま医療センター	クリスマスコンサート（病院ボランティア「ささゆり」）
日未定	ささやま老人保健施設	クリスマス会

※日程など、今後変更になる可能性があります。

介護付有料老人ホーム
朝日のあたる家
Le MONDO ル モンド
ご入居者様募集中
阪急今津線門戸厄神駅から徒歩15分

優雅なラウンジ
エントランスから続く優雅なラウンジ。ティータイムや読書など、ゆったりと静かなひとときに浸れる場所です。

寛ぎのカフェ
明るい陽の光が降り注ぐカフェ。香り豊かなコーヒーを楽しめます。夜は、お酒が飲めるBARになります。

高野槇のお風呂
木曽五木の中でも、木曽檜などとならんで丈夫で香り高い高野槇のお風呂。

医療
24時間 Dr. オンコール体制。

直営厨房のお食事
厳選された食材を使用し、日本の食文化を大切にした四季折々のメニューをお楽しみ頂けます。

●所在地：兵庫県西宮市若山町●サービス内容：介護付有料老人ホーム●開設年月：平成 25 年 12 月●構造：鉄筋コンクリート造 5 階建●敷地面積：901.56 ㎡●延床面積：3,050.57 ㎡●総戸数：59 戸（介護居室）●居室面積：21.6 ㎡●設備：洗面、トイレ、クローゼット、エアコン、ベッド、（一部）キッチン、（一部）ユニットバス●併設：居宅介護支援、通所介護事業●居住の契約形態：利用権方式●登録番号：第 011001 号●生活支援サービス：状況把握、生活相談、健康管理●保証金：30 万円●利用料：250,000 円／月●共益費：60,000 円／月●食費：60,000 円／月●生活支援費：20,000 円／月

お申込み・お問合わせ・資料請求
入居相談センター（担当：政岡）
9：00～18：00（土・日・祝含む）
0120-658-793（ろうごはちくさ）
または TEL.078-441-0001（特別養護老人ホーム甲南山手内）
詳細はホームページでもご覧頂けます。
http://www.chikusakai.jp ちくさかい 検索

阪急今津線門戸厄神駅から徒歩 15 分／阪急西宮ガーデンズから車で 10 分

CHIKUSAKAI GROUP 社会福祉法人千種会グループは神戸市東灘区を中心に特別養護老人ホーム、デイサービスセンターなどを展開しています。

おかげさまで今年10周年
学校法人 兵庫医科大学 事業法人
株式会社 エイチ・アイ
有限会社 エイチ・アイ・サービス
「事業会社の自由な発想」と
「何でもチャレンジの機動力」
各種斡旋：不動産、家電製品、引越業者紹介、貸衣装他
保険設計：＝ 団体扱自動車・火災保険、「学生総合補償制度」
取扱い等々・・・ お気軽にお問合せ下さい。
兵庫医科大学内 Tel：0798-45-6656 / 6673
HP ： http://hi-hyogo.com/hi.html

ご意見をお聞かせください！

本誌ではみなさんのご意見・ご感想をもとに、親しみのもてる誌面づくりを目指しています。

誌面のご感想や、ご要望、企画の提案、取材対象者のご紹介など、ぜひみなさんの声をお聞かせください。

【お問合せ先】
学校法人 兵庫医科大学　総務企画部 広報課
〒663-8501
兵庫県西宮市武庫川町1-1
TEL 0798-45-6655
FAX 0798-45-6219
Email　kouhou@hyo-med.ac.jp

大学探訪

兵庫医療大学 オープンスペース

兵庫医療大学には各棟にオープンスペースが設けられており、休憩中の学生が語り合ったり、授業の予習・復習をしたりと憩いの場として利用されています。

どのオープンスペースも大きな窓から暖かな光が差し込み、ゆったりとした時間が流れています。

学校法人兵庫医科大学

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

兵庫医科大学
兵庫医科大学病院

〒663-8501　兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL:0798-45-6111（代）
http://www.hyo-med.ac.jp/（大学）
http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/（病院）
http://www.corp.hyo-med.ac.jp/（法人）

兵庫医療大学

〒650-8530　兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
TEL:078-304-3000（代）
http://www.huhs.ac.jp/

兵庫医科大学
ささやま医療センター

〒669-2321　兵庫県篠山市黒岡5番地
TEL:079-552-1181（代）
http://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/

学校法人兵庫医科大学では、創立40周年を記念して医学教育、研究、診療をさらに充実・推進するため、新教育研究棟の建設を予定しており、そのための寄付金を受け入れております。
詳細は学校法人兵庫医科大学開学40周年記念事業募金ホームページ（http://hyo-med-anniv.com/）か募金推進室（TEL：0120-456-991）までお問い合わせください。

学校法人兵庫医科大学広報　発行月／2014年10月号・VOL.228　発行日／2014年10月25日
発行／学校法人兵庫医科大学　総務企画部 広報課
印刷・製本／株式会社ゼネラルアサヒ